

熟議の取組 ～現場の課題解決と教育政策形成の好循環へ～



とは… 多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決・政策形成をしていくこと。

具体的には、

- ① 多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まる
 - ② 課題について学習・熟慮し、議論をする
 - ③ 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まる
 - ④ 解決策が洗練される
 - ⑤ 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる
- というプロセスのことを言う。

【学校現場における熟議のイメージ】

子どもを巡る問題

地域、保護者



学校

熟議

地域、保護者



協働

学校

問題の解決

リアル熟議 (対面での熟議)



ハイブリッド
展開

- 教育現場の多様な当事者が様々なテーマで開催
- 平成22年6月の本格展開以降、全国各地約195箇所で開催され、約9千人が参加
- 熟議の声は文部科学省の政策検討に活かすのみならず、政令指定都市の中期計画に組み込まれる施策が生まれているほか、地域を巻き込んだコミュニティソリューションによる学校づくりにつながる事例も生まれている。

ネット熟議 (Webサイト上での熟議)



<http://jukugi.mext.go.jp/>

- 約20テーマで熟議が実施され、全国47都道府県・海外(登録者約3千人)から約1万5千件の声が寄せられている。(ページビューは約240万件)
- 教員の資質能力の向上方策について、審議会の検討に先立ち熟議を実施(提案書として政務三役・中教審に報告)
- 「ICTの活用」の熟議等は、審議会等と併行して実施され、検討の土台にもなる等、政策形成過程で様々な活用

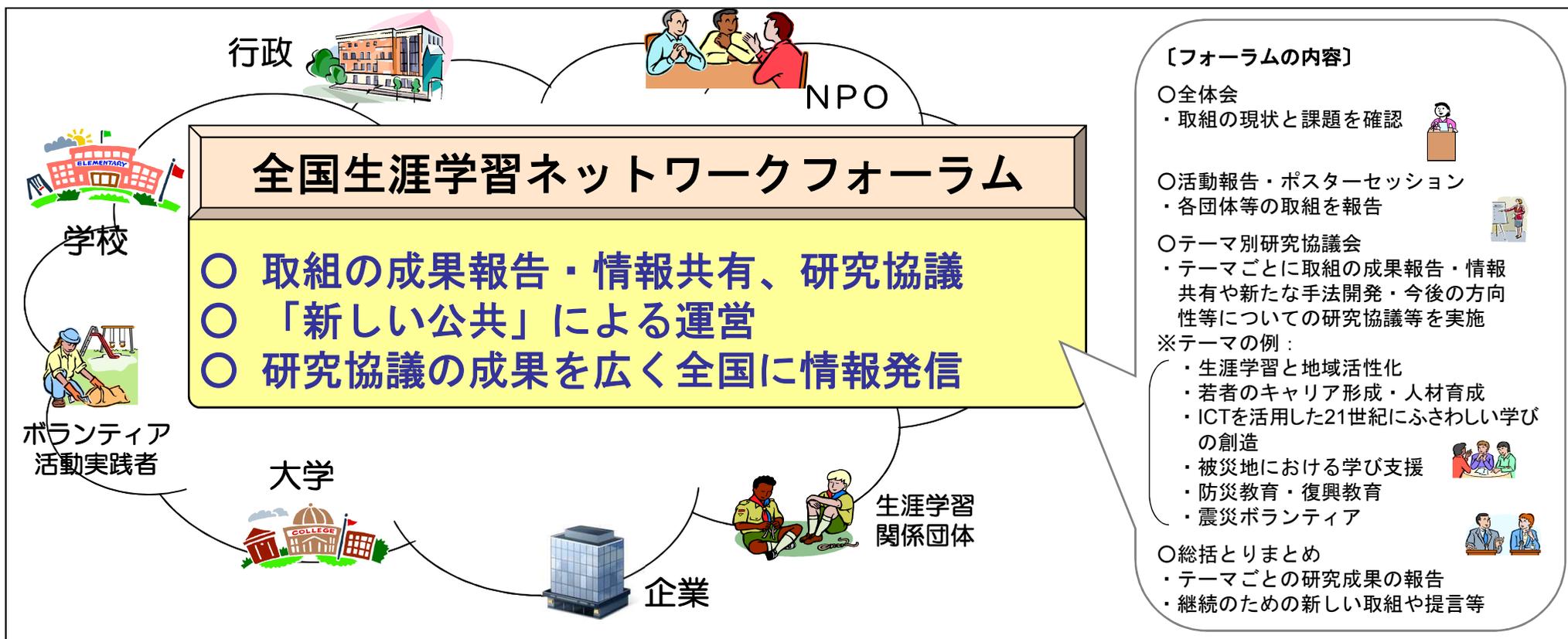
全国生涯学習ネットワークフォーラム

○教育基本法 第三条

生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

※学習成果の活用を促進する必要性

生涯学習活動の成果を生かした社会的課題の解決を図る取組（「新しい公共」による社会づくり）に関する研究協議等を通じ、取組の充実・拡大やネットワーク形成を推進



- ・ 生涯学習の成果を適切に生かすことのできる社会の実現
- ・ 「新しい公共」による地域づくり、社会づくりの全国展開
- ・ 関係者（行政、大学、NPO等の団体、企業）等によるネットワークの充実